

2026年度 実務経験のある教員による授業科目 交通機械工学科

学科共通科目						
科目名	単位数	配当年次	担当教員名	期間 曜日 時限	どのような実務経験をもとに、どのような授業を行うか	備考
流体工学演習	1	2	眞下 伸也	前期 月曜日 4時限	鉄道会社にて長年にわたって新幹線車両の開発に携わり、中でも高速走行に伴う空力的諸問題の解決に専門家として注力してきた経験を活かし、実感をもって「流体」に関する諸現象の理解に至るような授業を実現する	
交通原動機学2	2	3	永岡 真	前期 木曜日 2時限	実務経験：研究開発技術者（自動車用エンジン・パワートレイン、ガス分析装置）36年：製品化を念頭に基礎研究から応用開発に携わった実務経験で得た実例を交えて物理現象を説明し、学生の理解を助ける。	
ビークルエネルギー工学	2	3	永岡 真	後期 木曜日 2時限	実務経験：研究開発技術者（自動車用エンジン・パワートレイン、ガス分析装置）36年：製品化を念頭に基礎研究から応用開発に携わった実務経験で得た実例を交えて物理現象を説明し、学生の理解を助ける。	
鉄道設備	2	3	眞下 伸也 赤間 誠 堺井 稲生 目黒 裕 泉並 良二	後期 木曜日 3時限	<p>【眞下 伸也】鉄道事業者（JR西日本）において車両のうち台車装置検修職場の責任者を2年間勤め、さらに約20年間は新幹線車両の開発実務を担当したことから、車両だけではなく車両との境界領域については地上設備に関しても知悉しており、それらの実務経験を通じて得られた知見を最大限に活かして、単なる知識の伝達にとどまらず、その背景にある「考え方」までをしっかりと伝える。</p> <p>【目黒 裕】大鉄工業株式会社において、約27年の間、一貫してJR西日本の在来線保線業務に従事してきた。平成13年から3年間は、JR西日本金沢保線区に出向し、鉄道事業者としての線路設備の管理方法を学んだ。現在では大鉄工業の技術研修センターにおいて、講師として線路部門全体の技術力向上に務めている。線路構造や材料についての知識や、その保守方法について詳しく知悉しており、自らが得た経験とあわせてわかりやすく伝える。</p> <p>【堺井 稲生】鉄道事業者・鉄道総合技術研究所・鉄道設備設計会社・鉄道電気工事会社での長年の経験と技術士(電気電子部門)・電気学会IEEJプロフェッショナルとして得た知識を生かして鉄道電気技術について、表面的なものでなく、その本質・意義について解説する。</p> <p>【赤間 誠】検査員(鉄道車両)1年 研究者(鉄道分野)30年。主に鉄道総研における研究の経験を活かし、時々刻々変化する鉄道機械(工場内、軌道及び駅構内)の最新の技術について教授する。</p>	
自動車運動制御論	2	3	金子 哲也	前期 木曜日 4時限	自動車の運動力学と制御の専門性から、理論だけでなく実対象を例に講義内容を理解しやすく説明する。	
交通ダイナミカルシステム論	2	3	田代 勉	前期 木曜日 5時限	実務経験：製造業技術者(自動車用システム開発)22年実務経験を活かし、自動車および自動車の搭載されるシステムにおける振動的な特性や振動現象、これらに対する制御を実例として用いて解説する。	
基礎鉄道工学	2	1	眞下 伸也 則直 久	前期 木曜日 5時限	<p>眞下 伸也：鉄道事業者（JR西日本）において車両のうち台車装置検修職場の責任者を2年間勤め、さらに約20年間は新幹線車両の開発実務を担当したことから、車両だけではなく車両との境界領域については地上設備に関しても知悉しており、それらの実務経験を通じて得られた知見を最大限に活かして、単なる知識の伝達にとどまらず、その背景にある「考え方」までをしっかりと伝える。</p> <p>則直 久：実務経験：鉄道技術者(鉄道車両設計・保守等)38年、実務経験を活かし、在来線・新幹線・海外鉄道等、様々な観点から授業で解説する。</p>	

【単位数合計】13単位